

# 道徳学習指導案（3年〇組）

- 1 主題名 思いやる心（内容項目2－(2) 人間愛、思いやり）  
（資料名 「これでよかったのかな？（自作資料）」）

## 2 主題設定の理由

### (1) ねらいにかかわる生徒の実態

中学生の時期には、相手の立場を尊重して関わりを持つことの大切さを理解できるようになっている。しかし、スマートフォンを使ってのインターネット上のコミュニケーションが頻繁にとられるようになるなど、人との直接的な関わりが減ってきている。無料通話アプリでは、他の人との繋がりを気軽に持てるようになるものの、その関係は希薄であり、短文によるやりとりのため、誤解が生じたり、同調圧力が生じて必要以上に相手を傷つけてしまったりすることがある。自分が傷つかないために、より強い言葉を使ったり、反撃したりするなど、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合がある。このような生徒たちに、思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、自分も相手もかけがえのない人間であり、お互いを尊重することの大切さを自覚できるようにすることは大変意義のあるものであると考える。

### (2) ねらいとする道徳的価値について

2－(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ」は、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であるということを自覚できるようにするという内容項目である。

人間愛の精神は、お互いの存在を、強さも弱さも持ち合わせた人間として、肯定的に受け止めようとするものであり、他の人への思いやりの心を通して現れる。他の人の思いやりに触れ、それを素直に受け止めたとき、人は自然と感謝の気持ちを持つ。そして、今の自分は多くの人に支えられてきたからであることを自覚するようになる。思いやりとは、「助けてあげる」「親切にしてあげる」など、相手がかわいそうだからという単なるあわれみではない。根底に相手を尊重する気持ちを持ちながら、親切にし、いたわり、励ますといった態度を育てることは大切であると考えられる。

### (3) 資料について

本資料「これでよかったのかな？」は、無料通話アプリを使ったグループトークの中で、本人とわかる内容で中傷された「たかし」が、ネットのルールは守った方法で仕返しをしたものの、気持ちがすっきりしないという資料である。生徒たちは「ネット上のやりとりでは、相手を傷つける言葉を使わない」ということは知っていても、その時の感情でつい使ってしまうこともある。また、「相手に傷つけられたから、自分もやり返すんだ。」ということから起こる身近で現実的なトラブルを基に、本当にこれでよかったのかと、思いやりについて深く考えることができる資料である。

## 3 指導方針

- 情報モラルに関わることとして、読み物資料の冒頭では、無料通話アプリを利用する中学生の気持ちに触れることで、スマートフォン等の使い方について、自分自身を振り返られるようにする。
- 読み物資料ではあるが、無料通話アプリでのやりとりについては、スマートフォンをイメージした画面を提示する。メッセージのやりとりのようすを示すなど、生徒が日常で使っているものを用いることで、身近で起こりうることとして、資料の登場人物と自分とを重ね合わせて考えられるようにする。
- 無料通話アプリのやりとりを、台詞のみの役割演技で交代しながら表現することで、価値の理解を深められるようにする。
- 展開前段では、情報モラルの知識についても扱う。ただし、道徳の時間である本時のねらいに迫るために、限定的に扱う。直接本人の名前は挙げないものの、本人が特定できるやり方で中傷するこ

とはマナー違反であることや、公開されているブログのアドレスのリンクを貼っただけだが、相手を攻撃する目的で行うことはマナー違反になることを押さえるようにする。

○展開後段では、ネットワークを利用する上での思いやりと自分との関わりについて、生活を振り返り、今後の思いや課題を自覚できるようにする。

#### 4 研究との関わり

本研究では、「道徳の時間のための情報モラル自作資料集の作成と活用」を研究主題とし、「生徒の道徳的価値の自覚を深める指導の充実を目指して」を副主題に研究を進めてきている。生徒にとって身近に感じる情報モラルに関わる資料を活用しながらも、問題の根底にある道徳的価値について、考えが深められたかどうかを検証する。

#### 5 情報モラル教育との関わり

本時に関わる情報モラル教育の指導事項は、「すべての先生のための『情報モラル』指導実践キックオフガイド」(2007)と、それを基に作成された「情報モラル教育実践ガイダンス」(2011)に示された、「心を磨く領域」の「情報社会の倫理」分野、「a4-1情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する」「b4-1個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する」「b4-2著作権などの知的財産権を尊重する」である。

#### 6 本時の展開

- (1) **ねらい** 他の人との関わりについて、相手の立場に立って物事を捉えることの難しさと大切さを理解し、誰に対しても思いやりの心を持って接していこうとする態度を育てる。
- (2) **準備** プレゼンテーション資料 大型テレビ ワークシート
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 (太字は情報モラルに関わる内容)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○思いやりについてどう思っているか。 ・誰に対しても思いやりの心を持って接した方がいい。 ・意地悪な人には、思いやりの心を持たなくてもいい。	○生徒の意識や身近な問題について、事前のアンケート結果から、価値への方向付けを図る。
2 資料「これでよかったのか？」をもとに、登場人物と自分を重ね合わせながら話し合う。	30分	○無料通話アプリでやりとりをしていた四人になって、トークをしてみよう。思いやりがないと感じるのは、それぞれどんなところですか。 ・A子は、名前を出してはいなくても、みんなが見るところでたかしの悪口を言っている。 ・B子はA子を止めないで話を合せている。 ・C男は名前を聞き出そうとしている。 ・D男は名前を伏せながらも、みんなにわかるようにしている。 ○たかしに声を掛けてきたE子について、思いやりがないと感じるのはどんなところですか。 ・嫌な思いをしているA子を見て喜ん	○四人のネット上のやりとりを台詞の役割演技にし、交代で演じることで、思いやりを持つことの大切さ(価値理解)と、自分が怒っている時には、傷つけることをいってしまったり、つい相手に合わせてしまったりする弱さ(人間理解、他者理解)に目を向けさせるようにする。 ○ <b>情報モラルとして、A子だけでなく四人全員の行為は思いやりがなく、ネット上のマナー違反であることを確認する。</b> ○たかしの行為は、ネット上のルールを守ってはいらぬものの、相手を傷つける目的であったため、マナー違反であることを確認する。

		<p>でいるところ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わざわざたかしにお礼を言っているところ。</li> </ul> <p>◎たかしがすっきりしないのは、どうしてだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思っていた以上に騒ぎが大きくなってしまったから。</li> <li>・A子が笑いものになってしまったから。</li> <li>・自分のせいで、A子が嫌な思いをしているから。</li> </ul>	<p>○人が困っている姿を見て喜んでしまう人間の弱さ（人間理解）にも気付けるようにする。</p> <p>○思いやりのない行為に対して、思いやりのない対応をしても、A子の立場で考えてみるとすっきりしないたかしの気持ちに共感できるようにする。</p>
3 本時で考えたことを振り返り、発表する。	10分	<p>◎ネットワーク上でのコミュニケーションにおいて、思いやりのない不適切な書き込みを防ぐためには、どのようなことが大切だと思いますか。これまでの自分のことも振り返りながら考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、言われたら言い返してしまっていた。相手が嫌な思いをするのは自分も嫌な気持ちになるということを忘れないで、感情にまかせて文字を打たないようにすればいい。</li> </ul>	<p>○目に見えない相手の立場に立って関わっていくことの大切さを理解し、よりよいネットワーク上でのコミュニケーションをとろうとする気持ちについて振り返られるようにする。</p>
4 私たちの道徳をむ。	5分	<p>○私たちの道徳54ページを読む。</p>	<p>○思いやりは、単なる哀れみや自己満足とはちがうことを捉えさせ、相手の立場に立って関わっていかうとする態度を育てたい。</p>